



あなたの
ありのまま
をうけいれ

あなたの
自分らしさ
をえがくがっこう



(仮称) むつ市立学びの多様化学校 開校に向けて

教職員のみなさまへの説明会



2025.12.24

むつ市教育委員会

むつ市 多様な学びの場 全体図



前提

教育支援センター

学校復帰に向けて
エネルギーを蓄える活動

在籍校と連携した支援
教育相談員のアウトリーチ支援



R8.12.1～新センター運用開始

メタバース教育支援センター



誰かと
つながる
きっかけ
づくり

小・中学校

不登校のこどもたちは
心から在籍校で学びたい

不登校支援は小・中学校中心



発達支持的生徒指導の推進
魅力ある学校づくり
不登校支援の充実
校内支援センターの環境整備

むつ市の
多様な学びの場の保障

不登校対応
の役割明確化

むつ市の 3 多様な学びの場 全体図


学びの多様化学校


「もう一つ」の選択肢としての
多様な学びの場



少人数なら学べる
自分のペースでゆっくり学ぶ
「学校」に通える喜びを実感

今回のご説明



- ① 学びの多様化学校の概要
 - ② 本校での学び
 - ③ 通学的手段
 - ④ 転入学の流れ
 - ⑤ 教職員の配置・研修
- 

学びの多様化学校の概要



Topic 1

学びの多様化学校設置事業



学びの多様化学校として
新設

学校名 未定

むつ市立〇〇小学校・〇〇中学校
(通称) むつ〇〇〇学園

小学校・中学校併設

開校 令和9年4月1日(予定)

入学式 4月中旬～下旬を予定
配置された教職員の研修を
十分行った上で受入

校舎について



アクセス

市役所から13km 20分

- 大畑庁舎から 27km 33分
- 川内小・中から 37km 50分
- 脇野沢小中から 54km 75分



区域外

- 東通村から 21km 24分
- 風間浦村から 48km 57分
- 大間町から 58km 70分
- 佐井村から 70km 85分
- 横浜町から 15km 18分

開校場所

奥内小学校 閉校後の学校を活用

学校名 校名を決めた上で開校を迎えたい

学校名

未定で提出（おつ市立〇〇〇小学校・〇〇〇中学校）
愛称（おつ〇〇〇学園）

学校名決定の流れ

校名案を公募、ヒアリングした後、教育委員会で決裁

市民からの公募

SNS・広報等で
校名案を募る

ヒアリング

集まった校名案
意見を聴取
こどもの意見反映

検討委員会

検討委員会等で
候補を絞る

教育委員会
会議で決定

スケジュール

令和8年9月 校名案集約

令和8年10月 教育委員会会議への提出

令和8年12月 学校設置条例の改正

定員・対象者

定員

少人数の学びが
可能となる定員を
想定している

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
人数	8		8		8		10	10	10
合計	24						30		
	54								

対象者

- ① おつ市在住またはおつ市内小中学校に通学する
小学校1学年～中学校3学年児童生徒
→ 1回目：おつ市在住・おつ市内学校通学者 2回目：+おつ市外在住者
- ② 不登校状態もしくは不登校傾向にあること
- ③ 児童生徒・保護者両方に入学・転学の意欲がある

①～③の者のうち、教育委員会内の転入学支援委員会で適当と判断された者

本校での学び



Topic 2

教育課程の基準の特例（授業時数等）（例）中3

現行の指導要領上の教科・領域等

本校の新教科

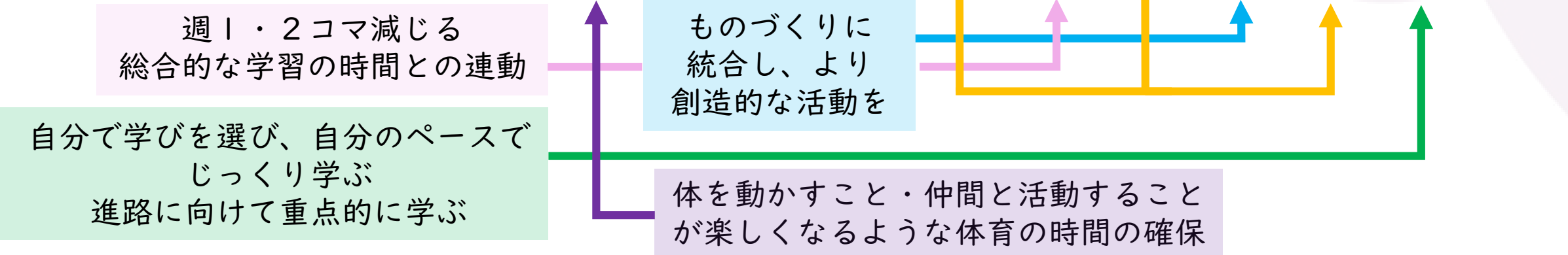
	各教科の授業時数									特別の教科道徳	きわめる(総合)	特別活動	ものづくり	つどい・かたり	〇〇タイム	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	外国語	保健体育	音楽	美術	技術・家庭							
本校	105	70	105	70	70	105	0	0	0	0	70	0	70	35	70	770
現行	140	105	140	105	140	105	45	45	70	35	50	35	0	0	0	1015

週1・2コマ減じる
総合的な学習の時間との連動

ものづくりに
統合し、より
創造的な活動を

自分で学びを選び、自分のペースで
じっくり学ぶ
進路に向けて重点的に学ぶ

体を動かすこと・仲間と活動することが
楽しくなるような体育の時間の確保



つどい・かたり



こどもたちが
1日のはじめに
教員と面談を行い
活動を見通す時間

こどもが集い
対話をとおして
考える・決める
学びの時間

〇〇タイム



各教科の学びに加えて
こどもたちが
自分のペースでじっくり
学ぶことができる

先の学習をどんどん
学ぶことができる時間
進路に向けて重点的に
学ぶ時間

きわめる (総合)



こどもたちが
探究的な学びをとおして
自分の「すき」
自分の「とくい」
を伸ばす時間

個別の探究で
没頭しながら学ぶ時間

ものづくり

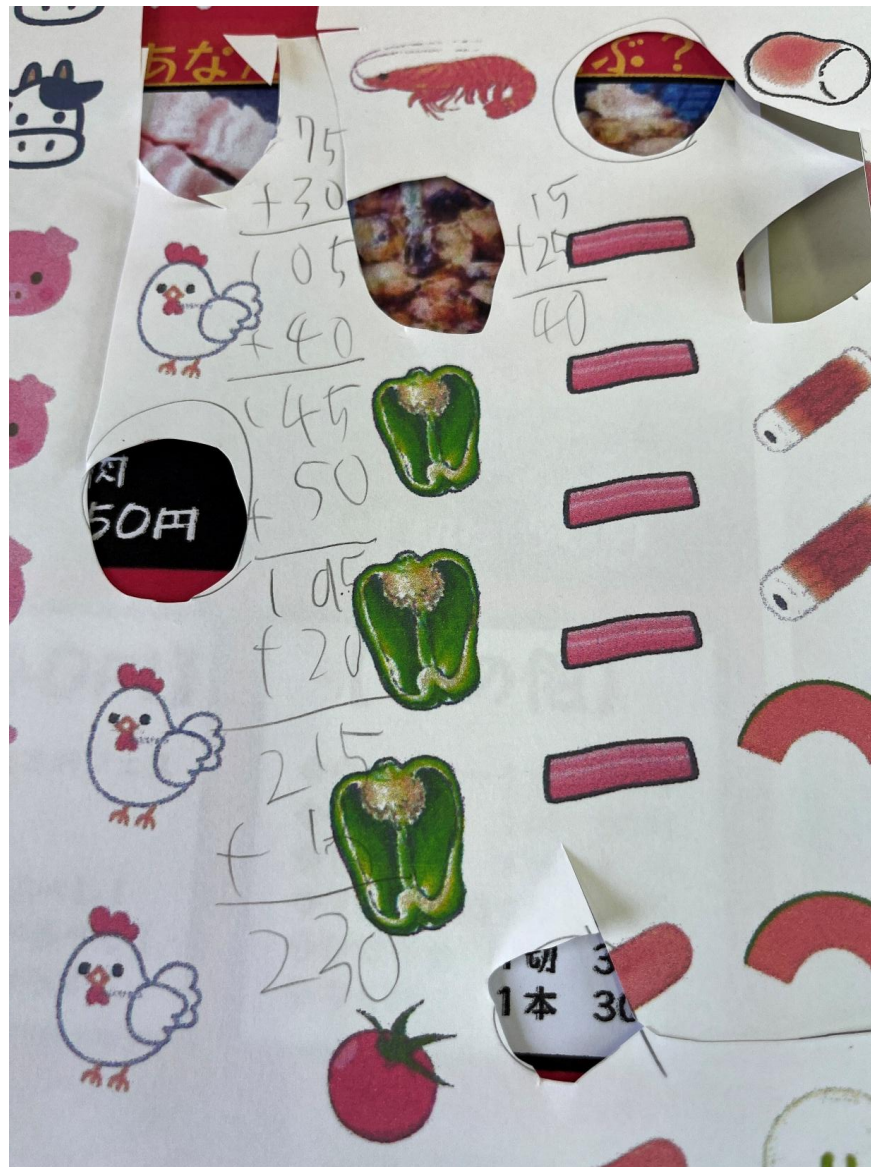


こどもたちが
手や体を動かし
五感をフルに使って
ものづくり、創造する
時間

図工、美術、音楽、技術
家庭科、栽培活動等の
よさをいかした教科

体験を大切にした教科の学び・主体的な活動でこどもの「よさ」を伸ばす

学びのアプローチ



実生活・環境

↓ ↑
学び

考える

決める

やってみる

数への気付き

学びの必然性

1日の生活の流れ

登校



9:30 登校

登校時刻を遅めに設定し気持ちに余裕をもって登校する

ウォーミングアップ



1日を見通す

職員と面談をし、心の状態を把握した上で支援を進める

学びの時間



体験的な学び

一人一人のペースや発達に応じた学びや体験的な学びでエネルギーをためる

クールダウン



1日を振り返る

職員と面談をし、1日の活動を振り返ることで成長や変容を自覚する

下校



14:30 下校

下校時刻を早めに設定し、次の日のエネルギーを残した状態で1日を終える

「考える」「きめる」「やってみる」のプロセスを大切にした教育活動

週時程・時間割

時程	時間	月	火	水	木	金
9:30 登校						
Warm-UP	9:30-9:45			つどい・かたり		
1	9:50-10:35			まなび 1		
2	10:40-11:25			まなび 2		
3	11:30-12:15			まなび 3		
昼	12:15-13:15			ランチタイム・あそび		
4	13:20-14:05			まなび 4		
Cool-Down	14:05-14:20			クールダウン		
14:30 下校						

給食配送
時間との
関連

(活動例)
ボランティア
清掃

登校後にウォーミングアップ、下校前にクールダウンの時間を設ける。
こどもと教職員が相談し、時間割を柔軟に組めるような週時程を構成。

教職員の1日の動き・関係機関との連携

ミーティング

8:15-9:30



シフト、時間割等支援のミーティング
こどもを余裕をもって迎えられるような準備

地域のリソースを最大限にいかした
教育部局・福祉部局等
関係機関との連携

始業～終業

9:30-14:30



一人一人の得意なこと、好きなことを伸ばす支援・教育活動
体験的な学びの実施

▲支援方法のアセスメント
ケース会議、保護者支援▶

カンファレンス

14:30-16:45



次の日の支援にいかすためのカンファレンスの実施
こどもの実態に応じた教材研究
家庭訪問、保護者面談
ケース会議

年間行事

基盤

特別活動の「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を基盤に設定

考える（話し合い）→決める（自己決定・折り合い）→やってみる（為す）

のスパイラルでエネルギーをためる

コンセプト

こどもが「～したい」「～できる」を支援する自律的・自発的な行事の計画

あらかじめ行事を設定しない「余裕」「空白」のある行事暦

年間行事のイメージ

1 学期

2 学期

3 学期

4月

7月

8月

10月

12月

1月

3月

開校式 はじまり
のつどい

保護者
面談

夏の
つどい

〇〇
フェスティバル

保護者
面談

冬の
つどい

保護者
面談

卒業式

2・3か月に1回（通年）

定期教育相談

転入学児童生徒体験入学・面談

教育支援センターとの交流・情報交換

副教材

一律一斉の教材
なじまない
より厳選する

学力テスト

基本的に参加・実施
しない

定期テスト

実施・作問は柔軟に対応
学びを振り返る機会の確保
変容や成長を実感できる取組

「希望制」とする 本人の求めに応じて個別に対応する
一律一斉の実施・計画はしない

1単位時間・単元・領域で丁寧に見取る評価
にいかす(いわゆる評定も可能)
本来の「指導と評価の一体化」の具現化

全国学調は参加で連絡

方針

こどもが自分の変容や成長を自覚できる取組

- ・こどもが「できたこと」
- ・こどもが「こうすればできる」

保護者も我が子の変容や成長を味わう

- ・こどもの「よさ」「得意」「次への目標」の共有

日常的な取組

日常的なコミュニケーション・綿密かつ素早い電話連絡

教育相談・保護者面談の充実

学校DX（学ポケ・Google等）を活用した丁寧な連絡

スクールバス

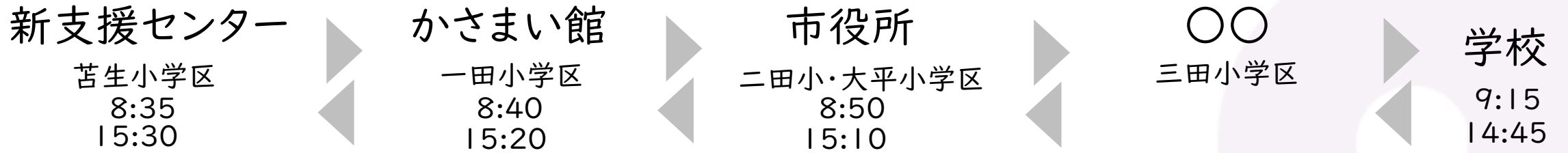


Topic 3

通学支援

通学方法 市内中心部循環スクールバス・保護者の送迎・公共交通機関

市内中心部スクールバスイメージ 市内を循環するバスを1本配車



軒のある公共施設・見守りがある環境・小中学校と程よい距離感がある停留所を選定

公共交通機関(参考)

公共交通機関の併用

下北交通

	むつ	奥内
野辺地線下り②	10:25	10:46
野辺地線下り③	12:15	12:35
	奥内	むつ
野辺地線上り③	10:37	10:59
野辺地線上り④	13:17	13:39

	横浜	奥内
野辺地線上り②	8:14	8:37
野辺地線上り③	10:14	10:37
	奥内	横浜
野辺地線下り③	12:35	14:45
野辺地線下り④	14:45	15:08

JR大湊線

横浜	近川	下北	近川
8:36	8:48	8:09	8:24
近川	横浜	近川	下北
14:31	14:44	13:43	13:57
		15:18	16:08

想定ルート(案)



むつ市役所
8:50 / 15:15



かさまい館
8:40 / 15:25

新支援センター
8:35 / 15:30



三田小学区
9:00 / 15:05

停留所の選定

配車時刻前後に
開館している施設

有事の際に
ヘルプできる環境

在籍校から程よく
距離感がある

北通・西通からの
接続を考慮



転入学の流れ



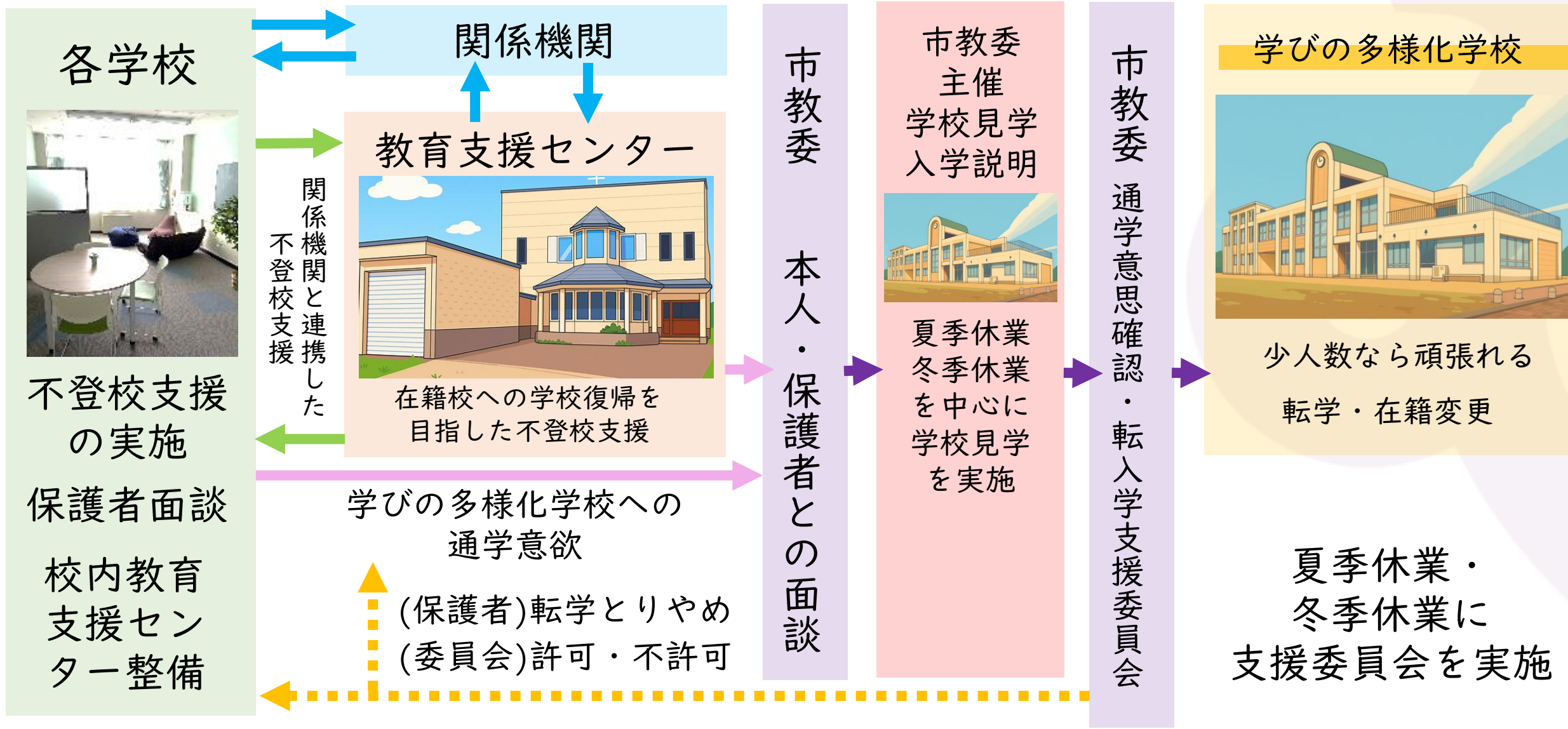
Topic 4

転入学までの基本的な流れ

R 8

協 議
継 続

24



学びの多様化学校設置までのスケジュール

体験入学

25

令和7年度

令和8年度

冬

市民への説明会
広報むつでのお知らせ

むつ市内在住 もしくは
むつ市内小中学校通学者

5月

入学説明会

8月

見学・体験入学

8月

転入学支援委員会

9月

転学児童生徒把握

左記の者に加えて
むつ市外在住の小中学生

8月

入学説明会②

9・10月

見学・体験入学②

11月

転入学支援委員会

12月

転学児童生徒把握

3月

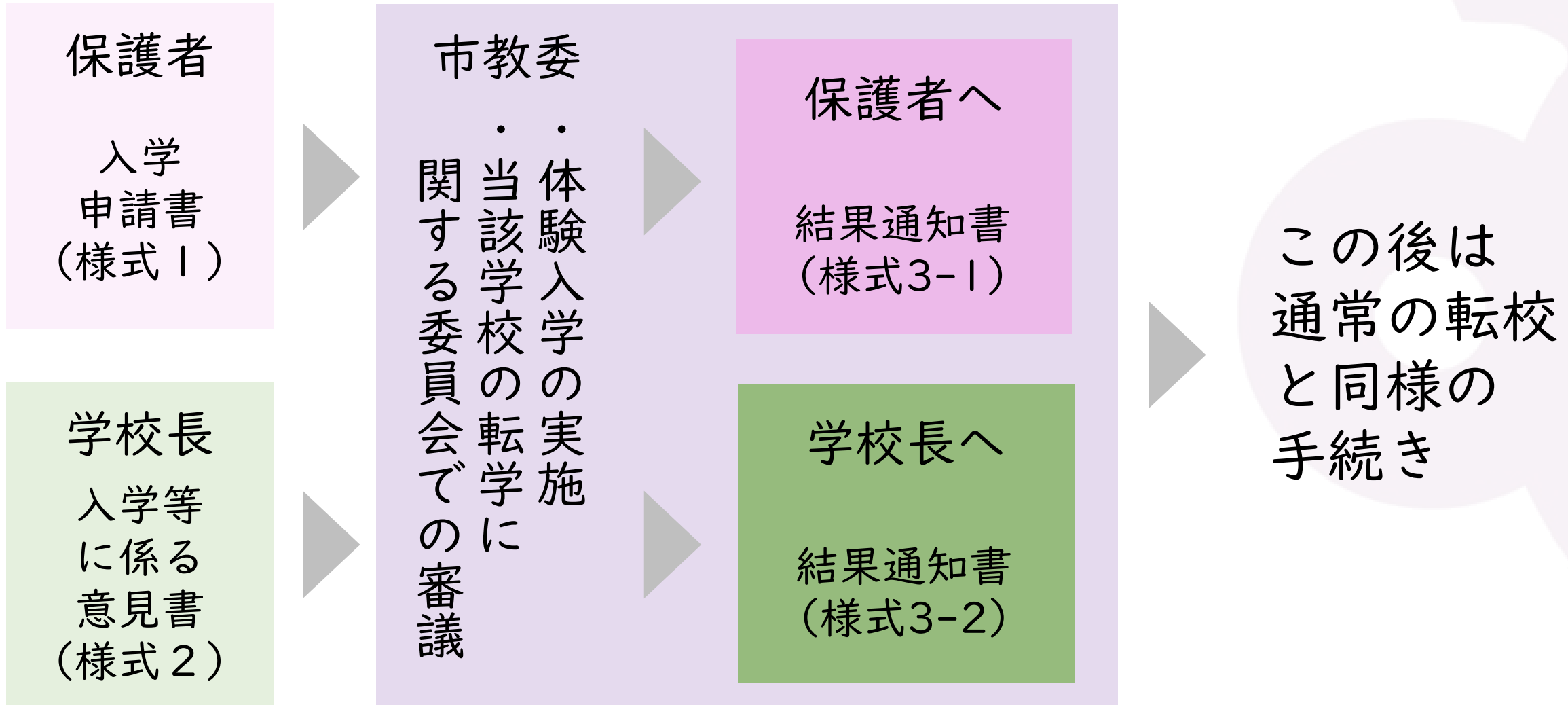
内覧会
1日入学

令和9年度

4月

開校
開校式

転入学まで申請書類等の流れ（案）



*参考：宮城県白石市「白石市立特例校の取扱いに関する要綱」

教職員の配置・研修



Topic 5

学びの多様化学校の教職員

教職員

R7県小・中学校
教職員配置基準を
参考に算出したもの

	県費負担教職員					市職員（会計年度）		
	校長	教頭	教員	養護 教諭	事務 職員	小中一貫 支援員	小中一貫 SC	用務員
人数	1	小1 中1	小3 中6	1	1	4	1	1
合計	14					6		

※小中併置校、学びの多様化に係る加配の可能性もある

市独自の職員の配置

市独自の職員の配置も検討

- ・ 専属SC等 支援にアドバイス
できる人材
- ・ 支援員 用務員等

支援センターとの連携

支援センターのノウハウ
人材をいかす工夫

教職員の研修について

むつ市教委主催の研修会

通年での研修実施

4月

不登校支援プログラム①

～校内支援センターと
教育支援センターの役割と運営～

7月

不登校支援プログラム②

～学びの多様化学校から学ぶ
不登校支援～

1月

不登校支援プログラム③

～効果的な支援の在り方～

各校の不登校支援の充実

学びの多様化学校への理解

教員の自主的な勉強会への参加・協働

教育委員会も支援

月1回程度で地道に不登校支援を学んでいく
管内の不登校支援のスキルアップ・連携強化



どの子にも 多様な学びの場を



おつ市HP
学びの多様化学校
設置事業



おつ市教育支援
センターHP



おつ市教育委員会事務局